

「介護実習を経て見えてきた夢」

宮崎県立小林秀峰高等学校 1年 伊勢 奈津美

「おじいちゃん、おばあちゃんのために、何かしたい」

これは、私が中学生の頃に抱いていた思いです。きっかけは、祖父が入院したことでした。お見舞いに行くと、ガンを患った祖父の腕は点滴でまっ赤にはれ、体はやせ細り、話すこともできず、ただ口を開けて天井を見上げていました。私は、動くこともできず、ただ毎日、天井を見ながら時間が経つのを待っているなんて可哀想、早く楽にしてあげたいと思い、手を強く握りました。その時の祖父の手は温かく、祖父が今、生きていることを私に伝えてくれているように感じました。それから、私は「何か自分にできることはないか」と考えましたが、何もできないまま祖父は亡くなり、悲しみと同じくらい悔しさが心に残りました。その思いが、祖父と同世代のおじいちゃん、おばあちゃんへの関心につながり、更に介護を学びたいという気持ちに膨らんでいきました。

念願の福祉科に入学して6ヶ月が経とうとしています。入学当時は「福祉」というたった二文字の言葉だけしか知らなかった私が、様々な勉強や体験、実習を通して、自分なりに「福祉とは何か」「目の前に居る人のために何ができるだろうか」と考えられるようになりました。特に、夏休みに4日間行った施設実習は、私にとって福祉の考えを変える大きなきっかけとなりました。

施設実習は、私が入学当初から楽しみにしていた勉強の一つでした。同じ施設で実習する友人とも声を掛け合い、やる気満々で臨みました。実習では、施設の方が授業で見たり聞いたりしたことをてきぱきと実践し、多くの専門用語を使って話をしていました。正直、話をしていること、質問されたことが理解できず、自分の知識のなさを痛感しました。また、利用者の方とのコミュニケーションでは、自ら話しかけても応えてくれず、うなずいてくれることもなく、無視をされてしまうこともありました。勇気を出して話しかけたのに、なんで話してくれないのかと悲しい気持ちになり、実習前のやる気に満ちた私とは違って、先に進めなくなっていました。家に帰ってからもそのことが頭から離れず「何が悪かったのだろうか」と考えていましたが、ふと今日の自分の姿が頭をよぎりました。私は、利用者の方に対して、話しかけなければならないという焦りと、何を話せばいいのだろうかという迷いがあり、恐る恐る話しかけていたのです。きっと、その自信のなさが顔に出てしまい、利用者の方を不安にさせてしまったのだと思いました。また、利用者の方がお風呂に入る準備をしている時間帯に声をかけてしまったことも、今、思えば嫌だったのかもしれないかもしれません。そして、何よりもいきなりやってきた私に、突然話しかけられたことに違和感を持ったに違いありません。施設の職員の方を見て、同じようにコミュニケーションを図ったのに、という思いばかりで、利用者の立場から物事を考えていなかったことに気がつきました。また、職員の方と利用者の方の間には強い信頼関係が成り立っていることを知りました。私には、まだ信頼関係を築き上げるほどの経験がありません。今の私にて

きることは何か、必死に考えました。結果、笑顔で話すこと、という当たり前のことしか思いつきませんでした。次の日から、どの利用者の方に対しても、自分の不安や緊張感、自信のなさを表情に出さないよう、笑顔で元気よく声をかけることを実践しました。それからは、コミュニケーションも少しずつはスムーズに行くようになり、笑顔の力はすごいなと感じるとともに、笑顔が人と人とをつないでくれることを知りました。

たった4日間の実習でしたが、多くの利用者との出会い、その人の人生話やいま思っていることを聞くことができ、そのなかで一人ひとりおかれている状況が違うこと、歩んできた人生が違うことが分かりました。そして、体が不自由になっても、寝たきりになっても、話すことができなくなっても、人はその一瞬一瞬を一生懸命に生きていることを肌で感じることができました。誰しも、年をとればできなくなることが増え、自分一人では生きていけなくなります。人の助けを受けながらも、自分のできる事を精一杯やることがその人の生きている証だと、利用者の方一人ひとりを見て思いました。そして祖父の姿を思い出し、今ならはっきりと言えます。最後まで生きることを諦めていなかったんだと。

「介護の仕事に就きたい。」これが、今の私の目標です。利用者の方ができなくなってしまった日常生活のことを代わりにする介護士ではなく、利用者の方が少しでも出来るようにサポートする介護士になりたいです。私の心にある思いは「人の役に立ちたい」ということです。場所や人にこだわらず、困っている人や誰かの援助を求めている人がいれば、その人の傍にいて、その人を笑顔にするきっかけを作りたいと考えています。そういう人になることが私の夢です。